

プラスチック造形可能

青工が米国製フルカラー

3Dプリンターを導入

複写サービス業の青工に本社を置く3Dシステム（本社・札幌）は、米国ムズ社製の業務用フルカラープリンター「Project

（R）4500（プロジェクト アール4500）を導入した。建設・土木分野での建築模型作製のほか、医療やホビー分野への受注も展望する。

1975年設立の同社はコピーや製本のほか、CADやGIS、電子納

品の建築・土木向けサービスを展開してきた。2014年からは、石こう

タイプの3Dプリンターで建築模型の作製業務も進めているが、フルカラーのプラスチック造形が

可能な同製品の導入によつて「形状表現力の向上や造形物の耐久・耐水

性アップなど、適応範囲を拡大できる」と期待する。

同製品は、粉末造形方式の世界初の連続階調フルカラープラスチック3Dプリンターで、プラス

チック粉末の上に3Dモデルの断面をインクジェット方式で印刷して造形

する。

積層が0.1ミリピッチという精密さで、なめらかで強靱（きょうじん）なモデルを、サイズ203×254×203ミリまで作ることができる。

このサイズ以上は分割して作製する。従来の単色や数色配色のシステムよりもリアルで豊かな

意匠が実現できるとい

う。同社は「この製品の導入は北海道で初めて」とアピール。住宅模型や橋梁完成模型など建設・土木分野での業務を強化するほか、フィギュアやホビー分野、精巧な臓器モデルなどの医療分野への展開も目指す。